

■**更科源蔵** 詩人，アイヌ文化研究家。生涯，北海道内を歩き，アイヌ文化伝承の記録と優れた自伝的小説を遺した。
さらしなげんどう
日露戦争始・1904＝ 北海道川上郡弟子屈村で，新潟県西蒲原郡から移住した更科治朗・ヨリの末子(9人兄弟)に生まれる。
日露戦争終・1905＝ 1歳：

韓国併合・・1910＝ 6歳：小学校まで遠いため，長姉テリの婚家のある北見清水尋常小学校に入学するが，すぐ弟子屈に戻り，
明治天皇没・1912＝ 8歳：改めて弟子屈尋常小学校に入学，往復16キロの道を通学。

本格政党内閣1918＝14歳：実家が火災で全焼，とても進学できる状態でなくなり，
ベルツ条約・1919＝15歳：尋常小学校補修科を卒え，御料局(帝室林野局)の小使いをしながら国民中学講義録で勉強をする。
そのうち，家の経済も安定し，獣医になりたいと，
原敬首相暗殺1921＝17歳：東京麻布獣医畜産学校本科に入学。夏休みに姉ミヨの墓に咲く百日草の花見て，「最初の詩をつくる」。
水平社結成・1922＝18歳：胸を病で吐血し休学。
関東大震災・1923＝19歳：大震災の後，麻布獣医学校を退学し帰郷，羊飼いをしながら病を養う。
護憲三派圧勝1924＝20歳：江渡狄嶺の紹介で，尾崎喜八を訪ねる。
治安維持法・1925＝21歳：「尾崎喜八の選で，詩誌『抒情詩』に入選」。

金融恐慌・・1927＝23歳：谷内一郎宅に寄寓。真壁仁を山形に訪う。
共産党事件・1928＝24歳：伊藤整を訪ねた後，上京。金井新作の案内で初めて高村光太郎を訪問。翌年まで詩誌『至上律』編集。
世界恐慌・・1929＝25歳：南弟子屈昭栄小学校教師の留守の間を頼まれ代用教員，その間路傍の雑草のスケッチ集を作る。
海軍軍縮条約1930＝26歳：屈斜路尋常小学校の代用教員になり，「*盲目の古老弟子カムイマからアイヌ文化の手ほどきを受ける。詩誌『北緯50度』創刊。山形の真壁仁が印刷や売捌きを引き受け，第一詩集『種薯』を刊行，注目される」。
満州事変・・1931＝27歳：詩を通じて知り合った中嶋はなえと結婚。思想偏向と当局からにらまれ，代用教員をクビになる。
五一五事件・1932＝28歳：長女道子が誕生。熊牛原野のセタイベツに山小屋を建て蔬菜園芸をはじめめる。以後，コタンで一刀彫りなど郷土玩具づくりをしたり，弟子屈で印刷屋をはじめたりする。
芥川直木賞始1935＝31歳：父が種牡牛に突かれ急死。黒色ギャング事件のあおりで特攻の取調べを2度受ける。
二二六事件・1936＝32歳：弟子屈の印刷所を売り払い，セタイベツで乳牛2頭を飼う。
日中戦争始・1937＝33歳：熊牛原野に土地を買い移転。
健保+総動員 1938＝34歳：次女葉子が誕生。開墾地で炭焼きをはじめ，乳牛1頭ふやす。
第二次大戦始1939＝35歳：妻が急性肺炎で死去。弟子屈役場の畜産係りを勤めるが，故郷での生活は最早不可能と，
大政翼賛会・1940＝36歳：退職し，長女道子を連れ札幌に転出。SK写真工房に勤める。
日米開戦・・1941＝37歳：北大新聞の編集をするも，危険思想と追われ，西村真吉の援助で『北方文芸』の編集に携わる。

創価学会検挙1943＝39歳：「*第二詩集『凍原の歌』を刊行。新設の北海道文学館理事長」。

敗戦・・・・1945＝41歳：北海道農業会主事として戦災者受け入れのため上京，東京の罹災者を連れた連絡船の上で敗戦迎える。
新憲法公布・1946＝42歳：川上澄生の義妹小坂チエと再婚。「川上澄生の版画を入れ『河童暦』を刊行」。
新憲法施行・1947＝43歳：母が死去。「出版社青磁社に勤め，全国的商業詩誌『至上律』を創刊」。
極東裁判決・1948＝44歳：長男光が誕生。「『弟子屈町史』の編集を委嘱され，
三大事件・・1949＝45歳：次男順が誕生。「刊行。道立図書館・NHK札幌中央放送局嘱託になる」。
朝鮮戦争始・1950＝46歳：「第3回北海道文化賞(学術部門文学賞)受賞」。
独立回復・・1951＝47歳：
マデーラ事件・1952＝48歳：「詩集『無明』を出版」。

自衛隊発足・1954＝50歳：故郷の空思い出し詩「雲」つくる。

インスタントマン・1958＝54歳：

安保闘争・・1960＝56歳：「『北海道の旅』刊行，
タイタイ病始・1961＝57歳：「*『更科源蔵詩集』を刊行。NHKのアイヌ伝統音楽の採取メンバーに加わり，以後全道各地のコタンを歩き，
この間，旺盛な文筆活動を続け，「北海道の花」「アイヌの楽器」「琴似町史」など次々刊行。

大学紛争始・1965＝61歳：「熊牛原野」出版。日本放送出版協会より「アイヌの伝統音楽」を刊行。
いざなぎ景気1966＝62歳：「『北海道地名の起源』刊行，
美濃部都知事1967＝63歳：「NHK放送文化賞受賞。自家版詩集『原野』出版。北海道文学館理事長，北海学園大学アイヌ文学講座教授。
霞ヶ関ビル・1968＝64歳：「天売島に『オロロン島』の詩碑建設。北海道新聞文化賞受賞。自家版詩集『北海道百年』を刊行。

日中国交回復1972＝68歳：「河童道」(川上澄生版画)「札幌放浪記」を刊行。
石油ショック1973＝69歳：北海道編集センターより佐々木逸郎編「更科源蔵詩集」が刊行される。
角栄金脈辞任1974＝70歳：国際文化交流でポーランド・チェコに招かれ東欧・中欧旅行。ラップランドに行き散文詩集「白夜」刊行。
クアラルンプール事件1975＝71歳：「北海道・草原の歴史から」『思い出の伊藤整』を刊行。
田中角栄逮捕1976＝72歳：「コタン生物記」3巻を刊行。中華人民共和国の招きで，北京・ハルビン・西安・上海を歩く。
JALハイジャック・1977＝73歳：「オロロン鳥」などの作品を広瀬量平が混声合唱曲「海鳥の歌」として発表し，芸術祭優秀賞に選ばれる。中国紀行の散文詩集「行雲」刊行。郷里の弟子屈町役場前庭に，作品「雲」を刻んだ文学碑建立され除幕式。
革新大敗北・1979＝75歳：真壁らとシルクロードへ行く。「アイヌ著作集十巻の計画が決まる」。
貿易摩擦問題1980＝76歳：日本現代詩人会から先達詩人の顕彰を受ける。心臓に痛みを感じ入院。肝不全・心筋梗塞と診断される。
・・・・・1981＝77歳：「アイヌ著作集のうち『アイヌ伝説集』など3冊出版」。
中曽根内閣・1982＝78歳：「アイヌ著作集のうち『アイヌの民俗』上・下など4冊が出版」。
デイズ・ユースト・1983＝79歳：「父母の原野」出版。「『おさない原野』を脱稿し，「少年たちの原野」を書きはじめするなど，なお筆力旺盛，
・・・・・1984＝80歳：「おさない原野」刊行。「詩集『如月日記』刊行」。
ジャンボ機墜落1985＝81歳：「北海タイムス」に「移住者の原野」連載。散文集「わが師・わが友」刊行。「青春の原野」脱稿直後，脳梗塞で没した。

「続々ほっかいどう百年物語」，「この人どんな人」，インターネット，